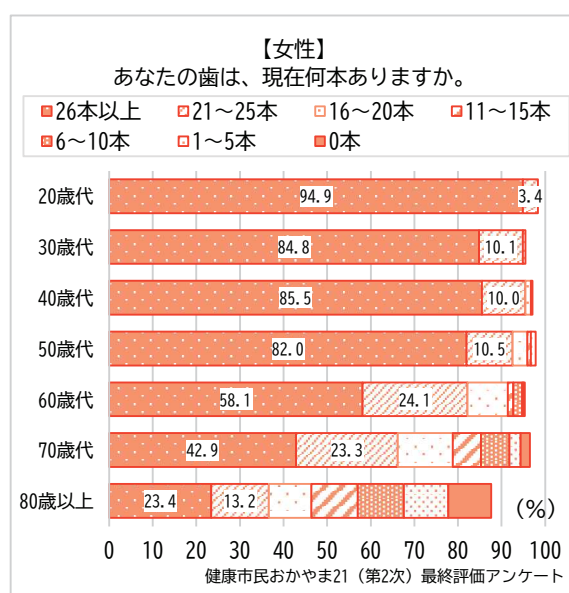
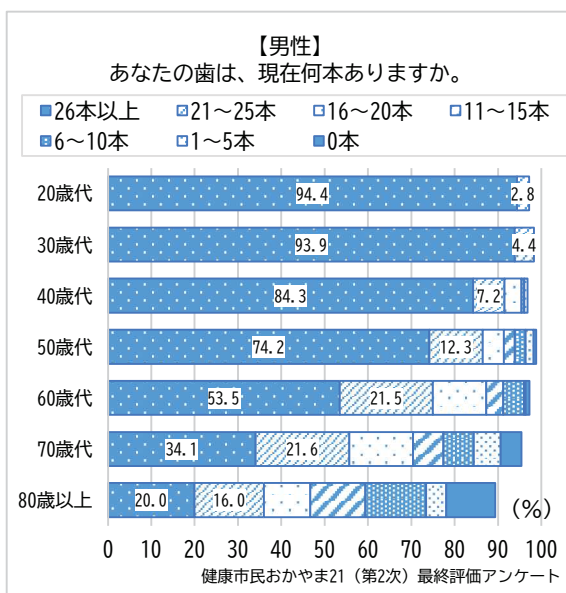
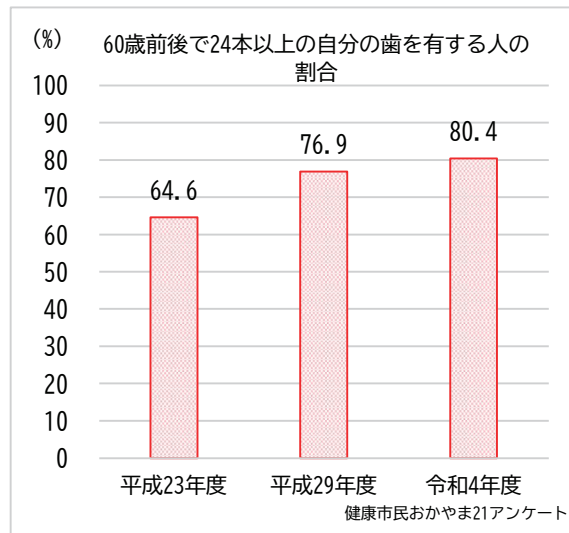
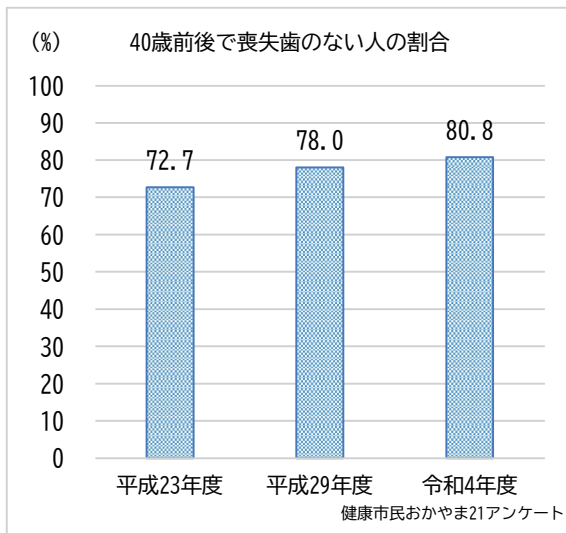


第2章 岡山市における歯科口腔保健の現状と課題

I 歯の数

40歳前後(35~44歳)で喪失歯のない人(自分の歯が28本以上ある人)の割合や60歳前後(55~64歳)で24本以上の自分の歯を有する人の割合は増加しており、歯が保存されていることがわかります。

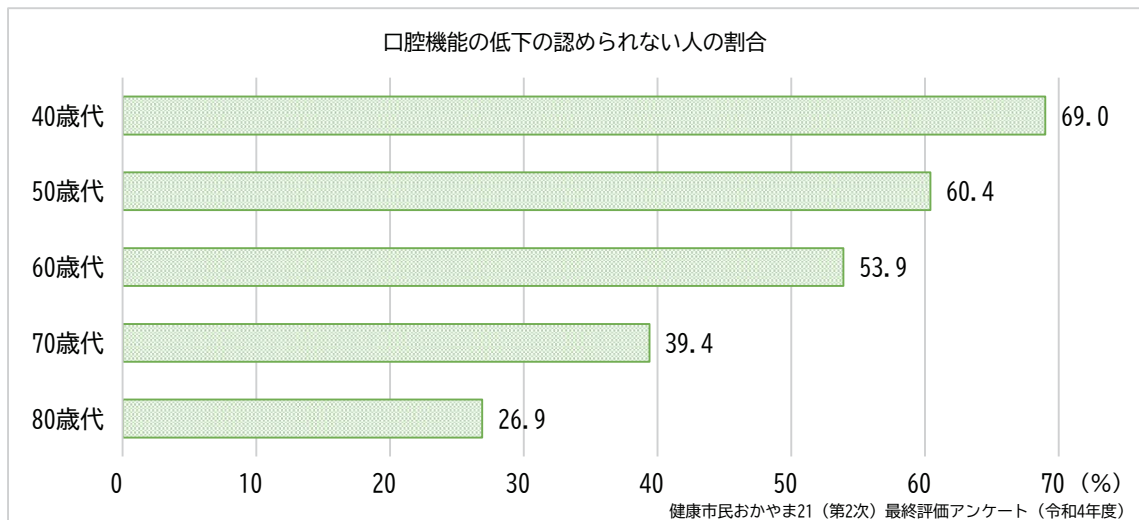
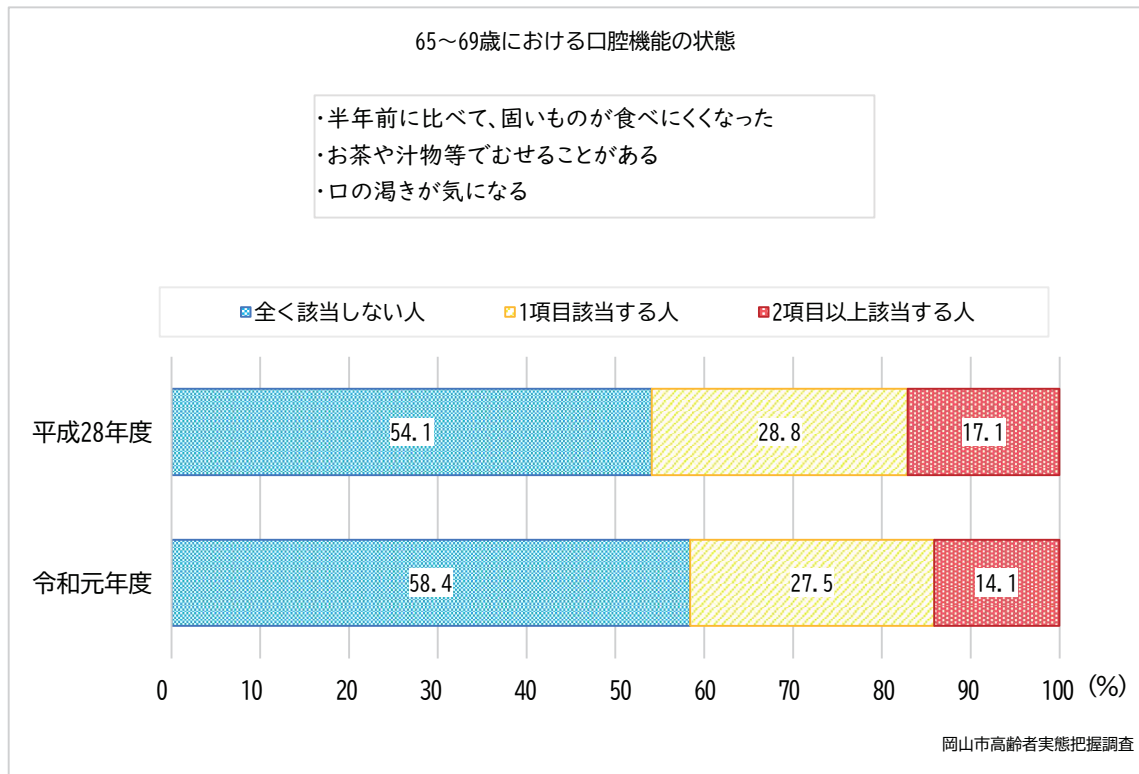
歯が無くなると、食べ物が咀嚼できなくなるだけでなく、はっきり発音できなくなります。生涯を通じて、食事や会話を楽しむためには、歯は必要ですが、適切なケアをしなければ、むし歯や歯周病になってしまいます。歯をよりよい状態で保ち、口腔機能を維持することが重要です。



II 口腔機能の低下

「半年前に比べて、固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」、「口の渇きが気になる」の3つの項目のいずれにも当てはまらない人は、65～69歳では6割弱で、その割合は、年齢が高くなるにつれて減少しています。

40～50歳代から、口腔機能の維持に関する対策をすすめていく必要があります。

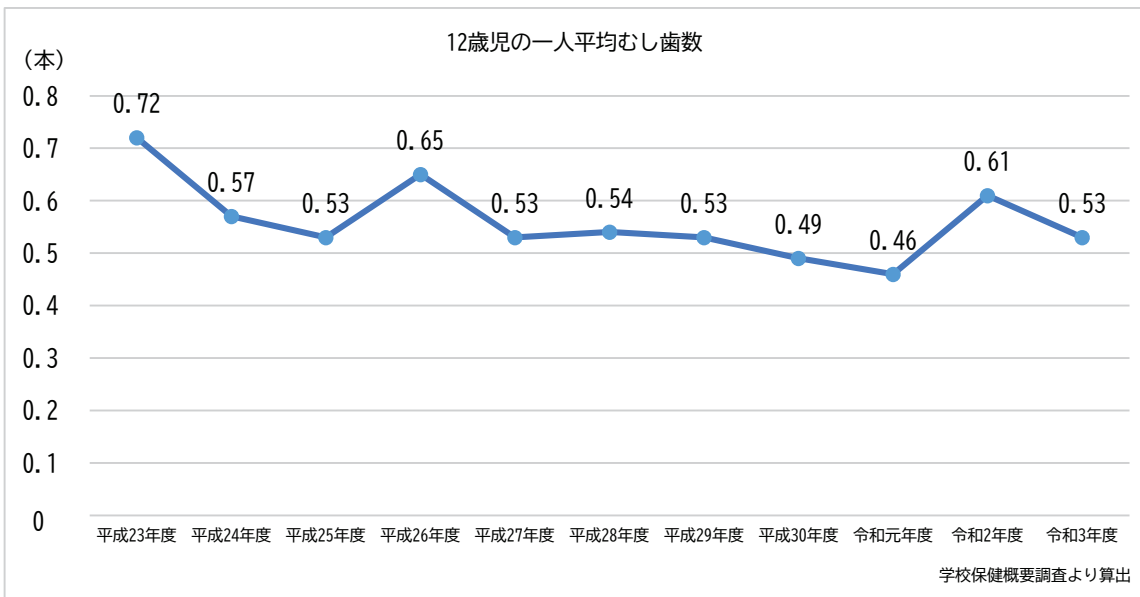
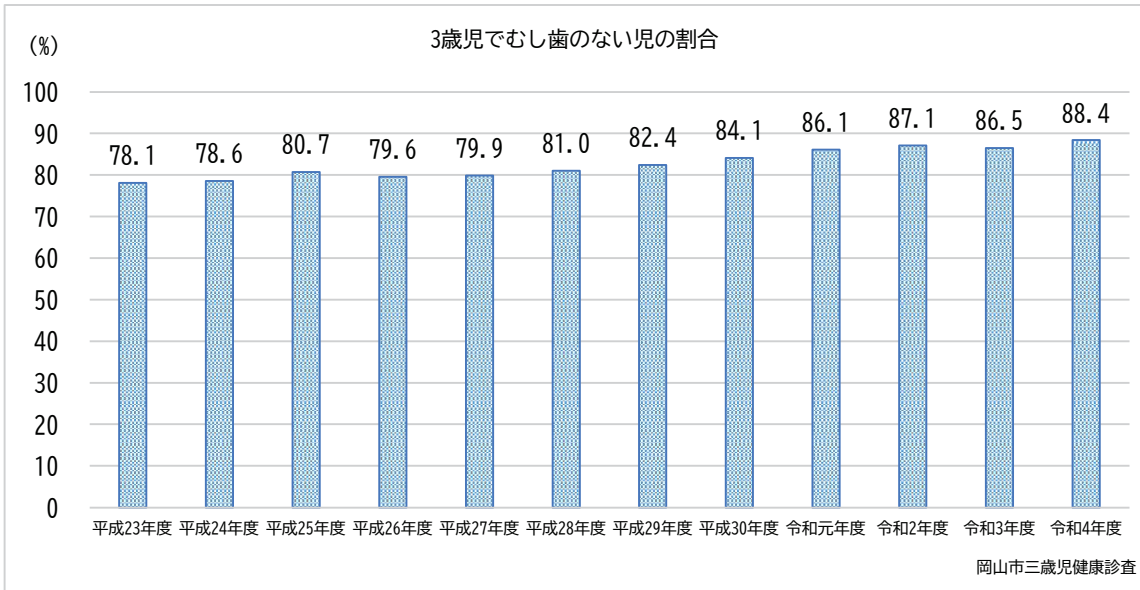


Ⅲ 乳歯と永久歯のむし歯

三歳児健康診査時にむし歯のない児は増加しており、乳歯のむし歯は減少しています。

一方で、12歳児(中学校1年生)の永久歯の一人平均むし歯数(未処置・治療済・抜歯の合計)は、増えたり減ったりを繰り返していて、最近10年間では、あまり減少していません。中学校1年生の二人に一人は、永久歯にむし歯ができています。

一度むし歯になってしまうと、治療してもむし歯になる前の状態には決して戻りません。永久歯にむし歯ができないような取組が必要です。



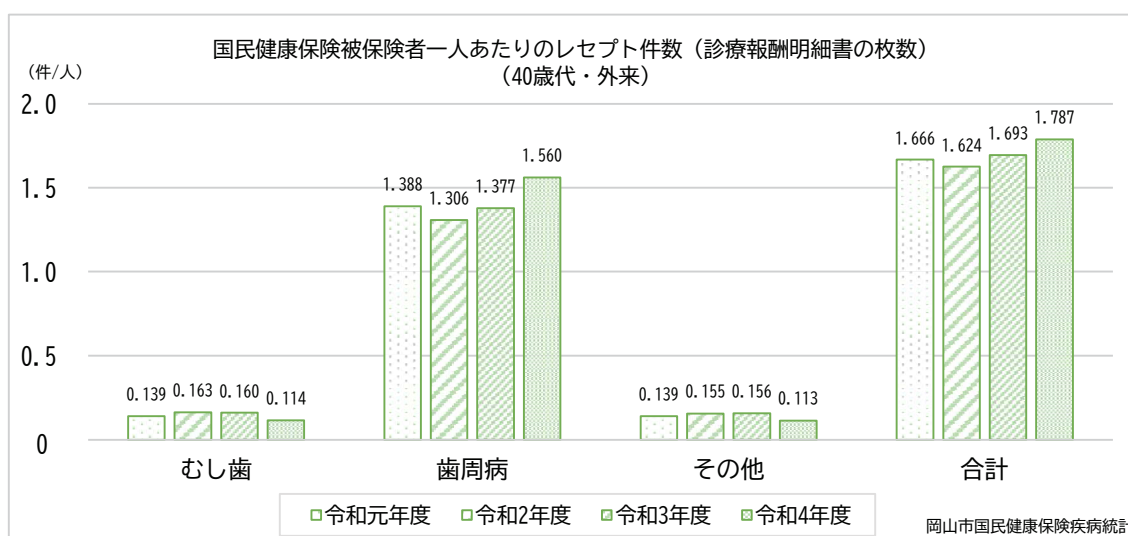
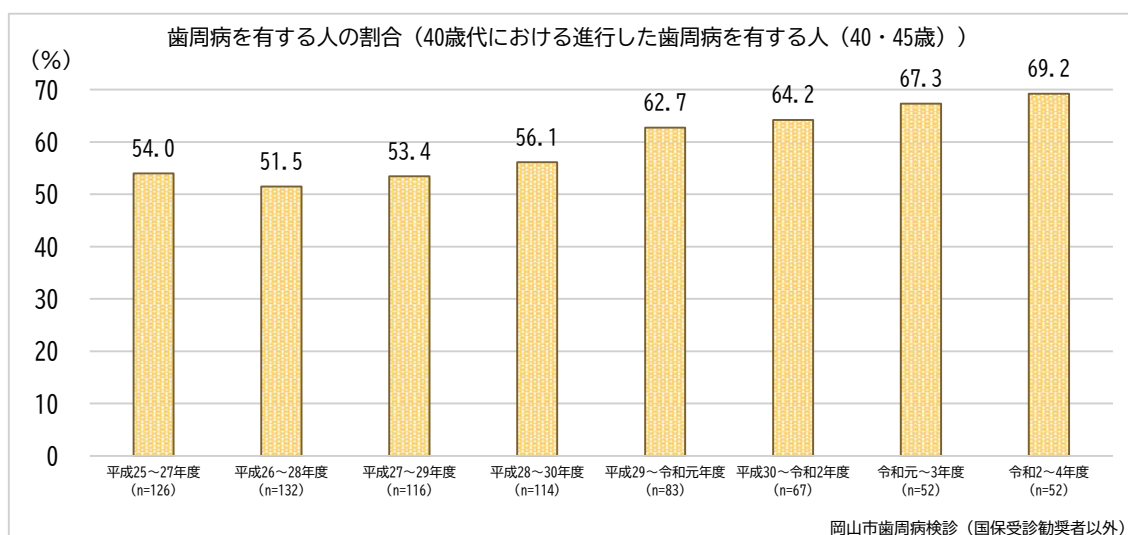
IV 歯周病の人の増加

岡山市歯周病検診の結果によると、4mm以上の歯周ポケットを有する40歳代(40・45歳)の人数が増加していることがわかります。

国民健康保険のレセプト件数(医療機関から岡山市に提出された診療報酬明細書の枚数、医療機関は月ごとに受診者一人につき1枚作成する。)によれば、歯科医療の受診状況は、令和2年度以降は、増加傾向にあり、中でも歯周病の治療を受けている人が増えています。

歯周病は、日常的に行う歯磨きや歯間ブラシの使用等によるセルフケアに加え、定期的に歯科を受診し、自身では磨ききれない部分を磨いたり、歯石を除去したりするプロフェッショナルケアとの両輪でケアすることが必要です。

全ての人々が、定期的に歯科を受診する取組を今後もすすめていく必要があります。



V 岡山市の歯科医師数

岡山市の歯科医師数は、政令指定都市・特別区の中で、4番目に多く、歯科医療機関にアクセスしやすい環境です。

三歳児健康診査の時点では、約7割の幼児が「フッ素塗布を定期的に受けている」と答えており、幼い頃は、かかりつけ歯科医を持って、定期的に歯科を受診していることがわかります。

しかし、その後、大学進学や就職等、ライフスタイルが大きく変化する20歳代から40歳代にかけて、歯科の受診機会が減少し、その後、徐々に受診割合が上昇する傾向がみられます。

歯と口腔の健康を維持するためには、定期的に歯科受診し、疾病を早期に発見するだけでなく、フッ素塗布や歯磨き指導等の適切な予防処置を受けることが必要です。20～40歳代、特に男性の受診割合を落とさないような取組が必要です。

